

横瀬小学校・横瀬中学校の耐震改修状況の公表について

学校施設の安全性確保は、児童生徒等が1日の大半を過ごす活動の場であるとともに、非常災害時には地域住民の応急避難場所としての役割を果たすことから、極めて重要です。

横瀬小・中学校には、耐震化の対象となる建物(非木造施設:2階建て以上又は延床面積200㎡超の建物、木造施設:3階建て以上又は延べ床面積500㎡超の建物)が7棟ありますが、建物の耐震化は完了しました。

耐震診断・改修状況一覧(平成25年4月1日現在)

●横瀬小学校

施設の名称	建築年月日	面積(㎡)	構造	階数	耐震基準	耐震診断状況					
						診断法	改修前		補強年度	改修後	
							Is値またはIw値	CTU × SD値		Is値またはIw値	CTU × SD値
第2校舎	S35. 6	1,392	鉄筋コンクリート造	3	旧				H12	0.81	0.38
第3校舎	S48. 4	1,468	鉄筋コンクリート造	4	旧				H20	0.78	0.78
特別教室	H2. 3	432	鉄骨その他造	1	新						
木造校舎	S8. 4	1,047	木造	2	旧	精密診断法1	0.24	—	H23	1.16	—

●横瀬中学校

施設の名称	建築年月日	面積(㎡)	構造	階数	耐震基準	耐震診断状況					
						診断法	改修前		補強年度	改修後	
							Is値	CTU × SD値		Is値	CTU × SD値
A棟	S54. 8	2,947	鉄筋コンクリート造	4	旧	2次診断	0.61	0.61	H22	0.76	0.59
B棟	S38. 5	1,073	鉄筋コンクリート造	3	旧	2次診断	0.43	0.44	H22	0.75	0.78
体育館	S47. 5	2,157	鉄骨その他造	2	旧				H13	0.82	2.76(q値)

●用語の解説

耐震基準	新 — 新耐震基準施行(昭和56年)後に建築された建物で、耐震性があります。 旧 — 新耐震基準施行(昭和56年)以前に建築された建物で、耐震化が必要です。
優先度調査	学校の設置者が、どの学校施設から耐震診断を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施するもので、優先度の高い順に、1から5までのランク付けをするものです。
診断法	第1次診断 — 個別の建築物の耐震性能を簡略に評価する診断方法です。 第2次診断 — 個別の建築物の耐震性能を詳細に評価する診断方法です。
Is値(Iw値)	建築物の耐震性能(地震に対する安全性)を数値化したもので、木造建築物の場合はIw値を使用し、その他の建築物ではIs値を使用します。この値が大きいほど耐震性能が高いことを表しています。文部科学省では、学校施設耐震補強後の目安を、Is値が0.7以上、Iw値が1.1以上としています。
CTU × SD値	建物の形状などを考慮し耐震性能を表した数値です。CTU「建物の持っている強度を表す値」とSD「建物の平面、立面形状によって決まる値」の積で表し、0.3以上が目標値です。
q値	建物が水平方向の力に耐えられる力の指標で、1.0以上が目標値です。